
詐欺師も所詮は男であって・・・

もこりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詐欺師も所詮は男であって・・・

【Nコード】

N2126BA

【作者名】

もこりん

【あらすじ】

天才詐欺師の椎名紫闇の今度の獲物は、ファミレスで働くおっとり少女の十六夜美姫。

彼女をターゲットとして一緒に暮らすことになったが彼女の実家はあたりでは有名なやくざ一家！！

騙せば殺され、事実を言っても殺され、別れても殺される！

そんな紫闇に残った選択肢は、美姫とうまく付き合っていくことだけだっ！？

事実は小説よりも奇なり

「えっ！もしかして私・・・騙されたの?!」

詐欺師の手に掛かった者たちは、今宵もこの言葉を静に呟いている。

今回の獲物は世間知らずのお嬢様だった。俺、椎名紫闇しいなしあんはたぐいまねなる技で結婚を夢見る女性に近づき、畏にはめる。いわゆる結婚詐欺師だ！

そして俺の個人情報は一切手に入らない。名前も履歴もその場しのぎのもの・・・。

そんな俺の次のターゲットとして選ばれたのは、俺が前から気にかけていたファミレスで働く少女。

おっとりとした雰囲気を持ち、この世の汚い部分など何も知らなそうな現代では珍しいタイプの少女だった。

だが、その割には身につけているものはどれも高級品ばかり・・・
容姿もまずまずだった。

詐欺師にとつては夢のようなターゲットだ。
俺はさっそく作業に取り掛かった。

ファミレスに行き席に着くと、なんと彼女の方から声をかけてくれた。

「いらつしゃいませ！ご注文がお決まりになりましたらそちらのボタンでお知らせください」

彼女はそう言ってボタンを指さすと、お盆から水を持って俺の前に置いた。

「ありがとうございます」

いつものパターンならここで俺がコップを倒して会話の輪をひるげる。

多少ベタだが『事實は小説よりも奇なり』なんてことわざがあるし、それに世間知らずの奴には多少怪しくても大丈夫だったりもする。むしろこういいう出会いを望むロマンチストだっているはずだ！！

だが、今回はいつもと勝手が違った。

彼女が「はい」と紫闇の目の前に置こうとしたコップは彼女の手からこぼれおち、なんと俺の顔面にコップの水が思いつきりヒットした。

「あつ！！ご、ごめんなさいっ！」

彼女は謝りながら布を取り出して俺の濡れた部分を拭いた。

「本当にごめんなさい・・・」

「だ、大丈夫ですよ。よくありますから」

あまりのいきなりの出来事に俺はつい言葉の選択を誤った。

今の現状は、カレーうどんの汁を服に飛ばしてしまったとはわけが違う。

水を顔面にかけられるなんてそうそうない。

せいぜいそんな体験は別れ話を切り出した時か、いじめにあつてるかだ。どちらにしても決して良い印象をもつてはくれないだろう。

「おいっ、君！何しとるんだ！」

どうやら騒ぎを聞きつけて責任者が来たらしい。

彼は、彼女が必死に俺の濡れた顔を拭いている布を奪い取った。

「君！これは濡れた床を拭くものだと教えただろう！」

彼女は半泣きになりながら責任者さんに言い返した。

「で、でも、店長がこれは濡れた所を拭くものって・・・」

どうやら彼女にとって俺は濡れている床と同じ扱いだったらしい。

そして散々叱られた揚句、結局彼女は店をクビになった・・・。

袖すりあつも多生の縁

俺は仕事をクビになってしまった彼女と公園のベンチに座っていた。

「あの、さつきは本当にすみませんでした。私馬鹿だからよくあるんです」

彼女は申し訳なさそうにうつむいたまま何度も俺に謝罪してくれた。

「いや、全然平気だよ。それに少しラッキーだった。君と知り合えるチャンスが出来たんだから」

こういう落ち込んでいるときにこそ慰めの言葉は胸にしみるものだっ！彼女を虜とりこにするには今しかない。

「ありがとうございます・・・。あの、お名前を伺ってもよろしいでしょうか？」

よしっ！彼女は段々と俺に対して警戒が薄れてきている。こうなれば付き合うまでは割と早いはずだ！

「俺は椎名紫間。君は？」

「私、十六夜美姫いざよひみぎと申します」

「あのさ、携帯のメアドとか教えてくれないかな？変な意味じゃなくて、今日こうして出会えたのも何かの縁だと思っし。急にバイトをクビになっちゃったら色々大変だろ？なんでも相談に乗れるよっに・・・」

「ありがとうございます」

こうして俺らはメアドを交換した。今の会話を聞いて「うさんくさい」とか感じる奴ら！そこは深く詮索せんさくするなっ！袖すりあつも多生の縁っていうだろ？今日いきなり会った客とメアド交換なんてめつたにないけど、多生の縁でも利用できるものは利用しとくもんだよ。

それから俺らはしばらくベンチで話しこんでいた。

「・・・実は私、今家出してるんです」

「家出？」

「はい。私の父親が本当に口うるさくて、それで勢いで・・・。知り合いに協力してもらってアパートを借りるところまではなんとか出来たんですけど、バイトクビになっちゃったから、もう家賃が払えなくなっただけ・・・」

彼女にとっては大惨事だろうが俺にとってはまんざら悪い話でもない。

「じゃ、じゃあさ、次の仕事が見つかるまでの間だけ、俺の家に来ない？」

「い、いいんですか？」

こんな怪しい話になんのためらいもなく乗ってくるのは、おそらく彼女だけなので、お勧めは出来ない口説き方だ。

俺自身、こんなにあっさりOKしてくれるとは思わなかった・・・。

こうして俺と美姫さんの同居が始まったわけだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2126ba/>

詐欺師も所詮は男であって・・・

2012年1月6日13時51分発行